

日本語ボランティア研修会が開かれました

中村松男(日本語教室部会)

日本語ボランティアの指導カブラッシュアップのための日本語ボランティア研修会が7月31日(水)、開催されました。2024年度第1回は「地域日本語教育の新しい方向性とその具体的な内容を知る、考える」、サブタイトルは「この5年間〈コロナ前とコロナ後〉の地域の日本語教室の移り変わり」を掲げました。参加者35名でした。今回も吉田聖子先生を講師にお迎えしました。吉田先生は、文化庁の日本語教育に関する講師やアドバイザーをされ、日本語教室部会のボランティア養成講座の講師をされています。

まず、日本に在住する外国人の国籍、在留資格別の変化について説明がありました。さらに、日本語教育に取り組む国(所管が文化庁から文部科学省に移管)、県、市それぞれの役割の変化、教材等の変化についても説明をいただきました。

次に、学習者のタイプの違いを整理し、初心者とそれ以上の学習者に対して使用する教材を見て、その違いを比較し、議論しました。

参加者は、同じ曜日に活動している人たち

同士で5、6人のグループになり、グループ内で、日ごろ気になっていることや困っていることなどを話し合いました。毎週、教室では教えている様子を見かけることはあっても、声をかけることは少ないので、情報交換としても貴重な時間でした。

最後に、我々ボランティアに向けて、「学習者に一度に100%に達するような成果を求めない」、「会話をしながら、日本語の経験の場を繰り返し提供する」といった基本的気構えを添えて、励ましのお言葉をいただき、予定時間をオーバーして終了しました。



参加者は小グループに分かれて話し合いました